

物流における環境保全

富士通グループの製品や部材、リサイクル品などの物流を担当している富士通ロジスティクスでは、製品の包装設計から保管・輸送にいたる一連の物流工程から発生する環境負荷を低減するため、次の施策を展開しています。

- モーダルシフトの推進
- 発泡スチロール系緩衝材の削減とリサイクルの推進
- 省エネルギーの推進

主な環境対策と推進状況

モーダルシフトの推進

輸送工程で発生する二酸化炭素、窒素酸化物や硫黄酸化物の排出を削減するため、1995年度以降、トラック中心の輸送体制から鉄道輸送へとモーダルシフトを積極的に推進しています。

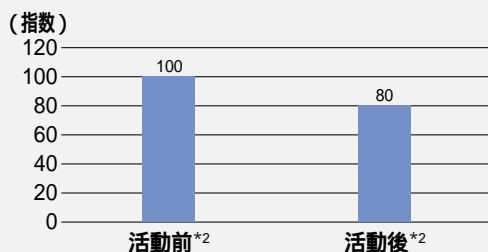
発泡スチロール系緩衝材の削減とリサイクルの推進

発泡スチロールから段ボール緩衝材への切替えを積極的に行っています。特に、コンシューマ製品などに適用し、発泡スチロールの使用量削減を推進しています。また、使用済みの廃段ボールを加工することで、紙系緩衝材として、再利用しています。

省エネルギーの推進(電力使用量の削減)

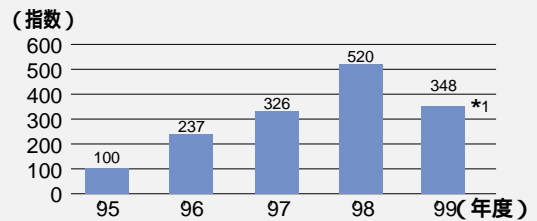
東京物流センターでは、環境マネジメントシステム活動として、1999年度より電力使用量の削減を目標値のひとつに設定して取り組んでいます。活動前に比べて活動後の電力使用量を17%削減するなど、着実に成果をあげています。この活動は、他の物流センターでも展開中です。

東京物流センター電力使用量の推移(活動前=100)



*2. 活動前：1999年 4月～9月
活動後：1999年10月～2000年3月

モーダルシフトの推移(1995年度鉄道コンテナ台数=100)



*1. 1999年度については、荷物の取扱量が減少したことともない、鉄道輸送の使用量が減少したことによるものです。



コンシューマ製品の段ボール緩衝材



紙系緩衝材

環境ISO14001の認証取得

国際規格(ISO14001)に基づく環境マネジメントシステムの構築・運用に取り組み、1999年12月に富士通ロジスティクスとして初めて東京物流センターで認証を取得しました。